

# 専門語の学習方法としてのバイリンガル語彙マップ

ジョイス テリー 高野 知子 仁科 喜久子

(東京工業大学大学院 社会理工学研究科)

Key words: 語彙マップ バイリンガル語彙獲得 専門語

ジョイス (2005a, 2005b, 2006)では、大規模日本語連想語データベースに基づく語彙連想マップが、第二外国語語彙習得に応用できることを示唆した。記憶の研究は、分類と意味組成が記憶成績に大きく影響を与えると数十年にわたって提言されてきた。しかし、Tinkham (1997)は、外国語の語彙学習について、意味的關係がある単語を同時に提示すれば、干渉的効果が生じるために、テーマで関連させている単語を提示するとより効果的であることを示した。Morin & Goebel (2001)は、第二言語としてのスペイン語学習におけるテーマと連想に基づいた意味のクラスタリングの効果を報告した。また、徳弘(2005)は日本語習得における「概念マップ」利用の効果について報告している。

Bahr & Dansereau (2001)は、英語とドイツ語の対語をリスト形式と二言語知識マップ形式を比べた結果、マップ条件において記憶成績が有意に高いことを示した。本研究の目的は、これらの先行研究を踏まえて、初級日本語学習者に対して専門語彙の日本語・英語の対語をリスト形式と語彙マップ形式を比較して、専門語彙教育におけるバイリンガル語彙マップの可能性を探求するものである。

## 方法

**実験参加者** 高等専門学校日本語予備教育生徒 47 名。実験参加者は、日本語の初級学者 (学習開始後 1 ヶ月) であり、アジア・アフリカ諸国からの生徒である。出身国、日本語能力のバランスを考慮して、リスト形式群 (コントロール群) とマップ形式群の二群に分けた。

**刺激材料** 英語・日本語各 14 語からなる対語を 3 セット用意した。各セットは「樹木」、「レポート」、「環境」に関連する一般的な学術専門語からなるように作成した。リスト形式では、それぞれの英語・日本語対を単に列に並べて提示した。マップ形式では、図 1 のように、意味の関連性に注目した空間に配置し語対で示した。

**手続き** 第 1 セッションでは、実験参加者はリスト形式あるいはマップ形式による 3 セットの対語を 30 分間学習するように指示される。その後、(1)自由再生(FR: 15 分)、(2)ランダム配置の手がかり再生(CR-R: 7 分)、(3)学習時形式の手がかり再生(CR-F: 7 分)の 3 種類の記憶課題を行った。手がかり再生課題では、手がかりとして日本語の単語がひらがなで示されている。1 週間後の第 2 セッションでは、再び 3 種類の記憶課題(FR: 10 分; CR-R: 5 分; CR-F: 5 分)、さらに言語テスト(5 分)が課された。

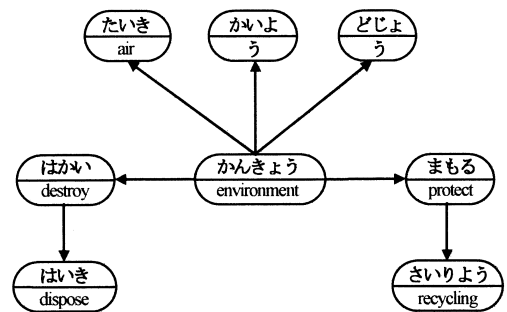


図 1. バイリンガル語彙マップの一部

表 1. 記憶成績

	課題		
	FR	CR-R	CR-F
セッション 1			
リスト形式	28.1	17.9	19.6
語彙マップ形式	37.8 *	21.6 ns	28.0 **
セッション 2			
リスト形式	12.0	11.2	14.4
語彙マップ形式	24.8 **	13.0 ns	22.8 **

\*  $p < .05$ . \*\*  $p < .01$ .

## 結果および考察

表 1 はセッションと課題によって記憶成績を示している (注: FR では英語と日本語の記憶を併せたものである)。形式  $\times$  セッション  $\times$  課題の 3 要因分散分析の結果、形式 ( $F(1, 45) = 198.01, p < .01$ )、セッション ( $F(1, 45) = 148.89, p < .01$ )、課題 ( $F(2, 90) = 69.37, p < .01$ ) の主効果が有意で、3 要因の交互作用 ( $F(2, 90) = 3.64, p < .05$ ) も有意であった。交互作用をさらに分析した結果、両方のセッションでの FR と CR-F の課題における記憶成績は、マップ形式群がリスト形式群より有意に高い。

本研究は、バイリンガル語彙マップが日本語における専門語習得に効果があるか否かを調査した。その結果、マップによる学習法は、語セット内の意味の関連性に注目し、第一言語における既存の概念知識を活用させることが、日本語における専門語の学習方法としては極めて効果的方法であることが明らかになった。

## 引用文献

Joyce, T. (2005). Constructing a large-scale database of Japanese word associations. In K. Tamaoka, (Ed.), *Corpus Studies on Japanese Kanji*, (Glottometrics, 10), pp. 82-98, Hituzi Syobo & RAM-Verlag.

本研究は、21 世紀 COE 「大規模知識資源」の一環として行った。  
(JOYCE Terry, TAKANO Tomoko, NISHINA Kikuko)